

JCMA 報告

コマツ小竹延和氏 経済産業大臣表彰

標準部

平成 22 年度工業標準化等表彰式が平成 22 年 10 月 18 日（月）都市センターホテル 3 階コスモスホールにて行われ、当協会標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員長を務められた小竹延和氏（株）小松製作所常務執行役員待遇中国副総代表）が、ISO（国際標準化機構）／TC 127（土工機械専門委員会）／SC 3（機械特性・電気及び電子系・運用及び保全分科委員会）国際議長職を務められ、ISO の国際規格・日本工業規格 JIS などの作成等に関与し工業標準化に顕著な功績があった方として、我が国産業の発展に資することを目的として経済産業大臣表彰を授与された。



小竹 延和 氏

小竹氏は、ISO/TC 127（土工機械）の活動に 2000 年 10 月のリオデジャネイロ総会より参画し、2002 年 5 月の同ワルシャワ総会に日本主席代表として出席、同総会にて各国の承認を得て前記 ISO/TC 127/SC 3（当時は“運転と整備”分科委員会）の国際議長に任命された。

それ以後、2003 年 10 月のソレント、2005 年 5 月の

北京、2006 年 11 月のシドニー、2008 年 5 月のエディンバラ、2009 年 10 月の濟州島と開催された ISO/TC 127 総会において、SC 3 国際議長として SC 3 傘下の国際標準化活動を指導し、かつ、TC 127 総会にて日本代表として審議に参画して国際標準化を推進した。

SC 3 は各国の意見の調整が困難な局面も多い分科委員会であり、現在も各種国際規格について審議が活発に行われているが、その中でも特に、ISO 15998（電子機器を使用した機械制御系（MCS）一機能安全のための性能基準及び試験）については、担当国のドイツ及びこれを支持するイタリアとこれに対して米国・フランスを始めとする各国との対立が深刻で国際規格化が困難を極めたが、前記シドニー総会に際して国際議長として自ら裁定案を作成して各国の意見調整を行うことよって同規格の制定を行い、国際標準策定における日本の指導性を発揮し多大な国際貢献を行った。

さらに、この間 SC 3 国際議長としては SC 3 を指導して、任期中に計 8 件の SC 3 国際規格の制定・改正を行い、国際標準化に多大の成果を収めている。この中には日本提案の ISO 16714（熱回収含むリサイクル性—用語及び計算方法）があり、日本主導の国際標準作成方針を世界に提示することに多大の寄与をした。さらに、SC 3 で日本提案の ISO 15143 シリーズ（施工現場情報交換）については情報技術の建設機械分野への適用を目標としているが、これも国際規格発行にこぎ着けている。

このほか、小竹氏の指導のもとで規格作成が進んだ規格案は、日本提案の ISO 15818（つり上げ及び固縛箇所—性能要求事項）並びに各国担当案件では ISO 22448（盗難対抗装置—分類及び性能）及び ISO 6405-1：2004/Amd 1（第 4 次排ガス規制対応用識別記号の追加）があり、建設機械産業としての社会的責任への対応のための ISO 国際標準化に多大の貢献を行っている。

小竹氏の指導の下で審議、制定又は改正、発行された SC 3 国際規格は次のとおりである。

- ・ ISO 6011：2003（運転表示機器）改正
- ・ ISO 6405-1：2004（操縦装置及び表示用識別記号—第 1 部：共通識別記号）改正
- ・ ISO 6405-2：1993/Amd 2：2004（操縦装置及び表示用識別記号—第 2 部：特定機種、作業装置 及び 附属品識別記号／追補 1：追加識別記号）追補発行
- ・ ISO 12510：2004（運用及び保全—整備性指針）制定
- ・ ISO 6750：2005（取扱説明書—内容及び様式）改正
- ・ ISO 15998：2008（電子機器を使用した機械制御系（MCS）一機能安全のための性能基準及び試験）制定



済州島で開催のISO/TC 127/SC 3/国際会議で
国際議長として会議を運営する小竹氏(写真中央)



済州島で開催のISO/TC 127 総会での小竹日本首席代表



小竹氏は現在中国にご赴任、ご後任のISO/TC 127/SC 3国際議長の株式会社小松製作所執行役員の中野一郎氏も当日は中国にご出張のため、代理として、小松製作所執行役員の中野一郎氏が経済産業大臣表彰を受賞された



- ・ISO 16714：2008（熱回収含むリサイクル性—用語及び計算方法）制定
- ・ISO 23727：2009（ホイールローダの_attachments トカプラ）制定

小竹氏は、国際展開する建設機械産業において、その商品開発部門に従事され、その製品開発方針が、国際標準化活動との協調が図られつつ進めていくことが極めて重要であることについて、自らがISO/TC 127/SC 3議長となってTC運営するなかで示してきており、この対応については、建設機械産業のみならず日本の産業全般の目指すべき方向を示すといえるものである。

小竹氏は現在、株式会社小松製作所の中国副総代表として開発・商品企画・品質保証を担当され、国際議長として醸成された人脈、及び作成された国際規格を基として、建設機械の普及が急拡大する中国において、国際標準の重要性と、それに日本が果たしてきた役割を広めつつある。

J C M A